

No. 1 海岸のゴミについて

【町へのご提案・ご意見】

苫前町まで来るまでの海岸線が、海側がずっとゴミだらけで本当におどろきました。漁師の人たちが使用して捨てたものもたくさんあるのかもしれませんが、何より、プラごみが多くて、せっかくの美しい海もだいなしでした。

留萌からずっと海岸はゴミだらけだったのですが、留萌・小平・苫前の町民やボランティアで少しでも海をきれいにしてもらいたいと願いました。管内の町が協力して行うことだと思います。オロロンラインがきれいになるように自分もクリーン作戦したいと思います。

【回答】

この度は、貴重なご意見をいただきまして、誠にありがとうございます。

世界全体で毎年約800万トンのプラスチックごみが海洋に流出していると報告されており、オロロンライン沿岸に漂着するごみは対馬海流や季節風の影響により、国内外から運ばれてくるほか、大雨などで河川から流出した立木が流れ着いているのが実態です。

また、日本海の厳しい荒波により意図せず破損・流出した漁具なども含まれている現状にあります。道内の漁業団体も環境保全のために定期的な清掃活動を自ら積極的に行っているところではあります。

留萌市から小平町、苫前町にかけての海岸線は砂浜と国道が並行しており、視界を遮るものが少ない地形的特徴に加え、冬から春にかけての厳しい気象条件によって大量の漂着ごみが打ち上げられるため、春先は一時的にごみが非常に目立つ状況にあります。

苫前町では毎年6月上旬に地域住民が一体となって「クリーンアップ日本海」という海岸清掃活動を行っているほか、特に漂着ごみが目立つ力昼海岸及び海水浴場（ホワイトビーチ）において海岸漂着流木撤去事業を、さらには日常的な不法投棄対策パトロール等を継続して取り組んでおり、2026年度も国及び北海道の補助金を活用し、観光シーズンに向けて本格的に事業を実施する予定であります。

オロロンラインの美しい河岸景観を守るため、沿岸自治体や北海道は地域の方々の協力の下、多額の費用と労力を投じて懸命に清掃に努めておりますので、この実態をご理解いただき、地域のクリーン作戦等のボランティア活動にご協力いただければ幸いです。

※参考

清掃活動の実施状況

【町主催】

- ・クリーンアップ日本海：町内海岸を町民や地域団体など約200人が清掃
- ・海岸漂着流木撤去事業：海岸流木の撤去（力昼地区及びホワイトビーチ）

【その他】

- ・民間団体：道漁連やコープさっぽろなどによるボランティア活動（不定期で実施）